

循環器小児科

循環器小児科を受診される患者さんの多くは、心臓・血管などに問題があるこどもたちです。しかしながら最近では、20歳～80歳代まで患者さんの年齢層は拡大しています。小児科医なのに何故。では、私たちの仕事内容について、もう少し詳しく紹介してみましょう。

1 循環器領域に問題があるこどもたち

先天性心疾患にはいろいろな種類があります。心臓内の壁に孔が開いている心室中隔欠損、心房中隔欠損。心臓から肺に血液を送る肺動脈が狭い(または閉鎖)肺動脈狭窄(閉鎖)、体に血液を送る大動脈が狭い大動脈弁狭窄、大動脈縮窄・離断。大動脈と肺動脈をつなぐ動脈管が閉じていない動脈管開存、大動脈と肺動脈の位置が反対の大血管転位。酸素を多く含んだ血液を肺から心臓に還す肺静脈が全く違う場所に連絡する肺静脈還流異常。そして肺動脈、大動脈へ血液を送るポンプ(心室)が1個(通常2個)の単心室などが挙げられます。

これらの問題は単独で、また複雑に絡み合って発生します。重症例の救命には正確な診断と治療計画の立案が必要で、出生前からの関わりが私たちの重要な仕事になっています。それから、バルーンや金網のようなステントを使用して弁、血管の狭い部分を広げる弁・血管形成術、コイルや特殊な道具を用いて異常血管や心内の壁に開いた孔を詰める塞栓術なども全国のトップレベルで行っています。これはカテーテル治療と呼ばれますが、外科治療と異なり胸を切る必要がないことが特徴です。

川崎病も重要です。熱、目の発赤、赤い唇、発疹、首のリンパ節の腫れ、手足・指の腫れ、BCG接種部位の発赤などを特徴とする疾患です。心臓にある冠動脈(詰まると心筋梗塞)が拡大する冠動脈瘤の合併について聞かれた方も少なくないと思います。ガンマグロブリンという血液製剤が有効ですが、2割の患者さんは治療に抵抗性です。現在、全国の主要施設と共にシクロスポリンという薬剤の有用性について研究中です。

イラクからの留学生と共に

2 先天性心疾患をもつ成人

生まれた時から異常があっても、成人期になって発見される患者さんや、小児期に治療不要と言われていても、年齢とともに孔を通過する血流量が増大し、治療を薦められる患者さんも少なくありません。その代表が心房中隔欠損、動脈管開存であり、多くは(7~8割以上)胸を切らずに、カテーテルで治療できるようになりました。現在までにそれぞれ230例、50例ほど治療していますが、この治療法は認定制で成人の患者さんも循環器小児科で治療しています。

3 胎児の心エコー検査

診断法の確立と機器の進歩により、多くの心疾患が出生前から診断されるようになってきました。窓口である産婦人科で異常が発見されれば、循環器小児科でさらに詳しく調べるシステムになっています。

このように胎児から成人まで、そして診断からカテーテルによる根本的治療まで、私たちの守備範囲はどんどん拡大しています。われわれの施設は小児循環器専門医の修練施設です。将来、数多くの患者さんの力になれるよう、若い医師も育てています。



かがやき

Hiroshima City Hospital public relations magazine

Kagayaki

広島に生まれ、育ち、暮らして、良かった

広島市立広島市民病院 岡島 正純
副院長

私事で恐縮ですが、広島に生まれ、広島を離れることなくこの街に暮らして60年になります。

子供のころ、大きな道路はなく、田んぼも多く、テレビで見る東京に比べると明らかに田舎でしたが、今では、程よい都会となりました。トンボがいない、ツバメが来なくなった、虫はどンドン山奥に追いやられている、など無くなった風情も少なくないですが、相変わらず住みやすく、愛してやまない街です。

広島の何がいいのか。無償の愛なので理由などないに等しいのですが、敢えて言えば、まずは郷土愛にあふれる人の熱さ、温かさ、優しさ、四季折々の景色、花、風土でしょうか。鬱陶しいといわれる梅雨でさえ愛おしく感じるがあります。

スポーツ、芸術、文化はどうでしょう。お荷物球団と言われたわれらがカープは全国区の人気球団になり、本気で優勝を口にできる状況になりました。ちなみに昭和50年の初優勝は後楽園球場に馳せ参じて応援し、夜通し「わーれーらがカープ」と歌い、泣き、飲み明かしました。サッカー、バレーボール、そしてバスケットボールも優勝できる強豪です。触れることのできる芸術、文化はさすがに東京に比べれば少ないものの、選りすぐりの作品に触れる機会は年々増えてきています。

人口当たりの映画館数が全国5位なのをご存知でしょうか。われわれが子供のころ、ワクワクしながら朝日会館に行ったときと同じような感動を今の子供たちは、数あるシネコンや、広島が世界に誇る八丁座で感じていることでしょう。

そして、平和都市「ヒロシマ」。悲惨な被爆体験の代償ではありますが、日本の置かれている状況や政治に左右されることなく、臆面なく「平和」、「戦争反対」、「核兵器廃絶」を発信できる街。誰が何と言おうと、わが街広島、また広島の人、未

来永劫、核兵器はおろか、戦禍にさらされることがあってはならない、と大きな声で言えるのです。

広島平和公園を歩くとその美しさに心が落ち着く半面、何か心の奥に搔き立てられるものを感じてしまいます。その平和公園の近くに私共の広島市民病院があります。

そこで本題です。広島に生まれ、育ち、暮らして、良かったと思う理由の何番目かに「広島市民病院」があるのでしょうか。私は医療を志して以来、広島市民病院は憧れの病院でした。今憧れは現実となりましたが、外から見ていた以上にこの病院は輝いています。

スタッフ、医療技術は日本にとどまらず、世界に誇れるものと自負しています。医師、看護師、医療スタッフをはじめ、すべての職員は市民の皆さんの要望に応えられるよう、文字通り身を粉にして働いています。

しかし、市民病院だけでは皆さんに満足いただける医療を提供できないのも事実です。皆さんのそばに寄り添うかかりつけの先生方、我々の病院と家をつなぐ連携病院にご協力いただければじめて達成できるものと考えております。市民病院の医療は本号でも紹介したように歩みを止めずに進歩しております。

皆さんから広島で暮らしてよかったと思われる理由の一つに広島市民病院とその連携病院があるからと言っていただけよう、これからも日々努力して参ります。

外来診療のご案内



診療受付時間

午前8時30分～午前11時00分
※眼科/火・木曜日
午前10時00分まで
診療科によっては休診日がありますので事前にご確認ください。

休診日

土曜日・日曜日・祝祭日・8月6日
土年末年始(12月29日～1月3日)

紹介状持参のお願い

初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費のほか1,610円のお支払いが必要となります。初診の際には、紹介状をお持ちください。

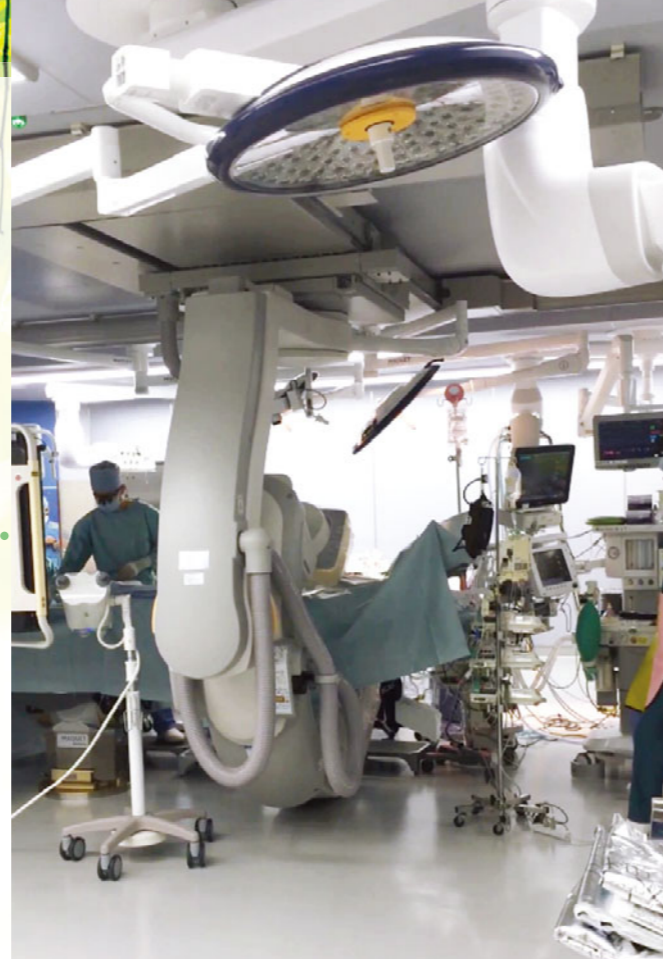
ハイブリッド手術室完成をむかえて

広島市民病院では、独立行政法人化に伴う事業としてハイブリッド手術室工事を進め、4月に完成しました。

「ハイブリッド手術室」とは、麻酔装置・人工心肺装置などを備えた清潔な手術室内に、3D-CT撮影も可能な高性能の固定型X線透視装置を設置し、開胸・開腹手術と血管内治療のいずれにも同時に対応できる高度な未来型手術室システムのことです。

大動脈瘤手術では胸や腹部を開いて人工血管に置き換える手術が一般的ですが、胸部大動脈瘤では人工心肺が必要であり、術後も体力が低下し長期の入院が必要でした。

近年はステントグラフト(人工血管にバネがついたもの)治療が広まっています。この多くは足の付け根の動脈から挿入することで、開胸・開腹の必要がなく、早期の社会復帰が可能です。今後はハイブリッド手術室の利用で、より正確に、かつ、安全な実施が可能となりました。また特殊な症例で行う頸部分枝バイパス・腹部分枝バイパスを組み合わせたデブランチ手術も同時に、より安全に行うことが出来る



ようになりました。

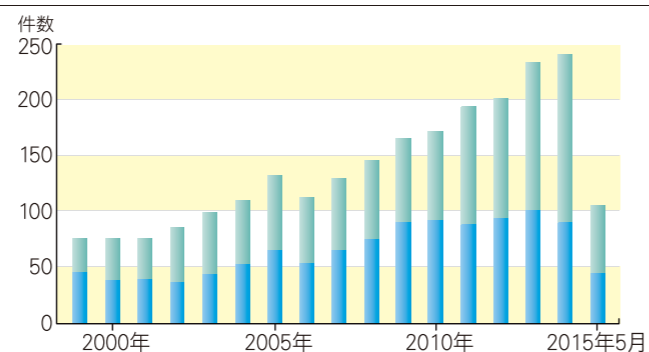
一方で、従来型の開胸・開腹手術中の問題発生時の場合など、X線透視装置の使用により血管や臓器画像をリアルタイムで作成し、その場で追加のステントグラフトの挿入や冠動脈・末梢血管の血管内治療の併用が可能になりました。

心臓血管外科では、現在は施行困難な患者さんであっても、今後はステントグラフトが可能となる可能性を秘めています。

同時に、社会の高齢化に伴って増加する大動脈弁狭窄症に対して、カテーテル的にアプローチして人工心肺を用いることなく治療する方法(経カテーテル的大動脈弁置換術:TAVI)が実施可能になります。

さらに、今回手術室完成に合わせ、各部署の枠組みを超えた心臓・大血管低侵襲治療部が発足し、心臓血管外科・循環器内科・麻酔科・放射線科・看護部など有機的に連携したチーム医療が動き始めました。これにより、新規のハイブリッド手術室を用いる医療だけでなく既存の医療レベルの向上につながると考えられます。

1999年から2015年5月まで
 ■ 胸部大動脈瘤手術: 1180件 ■ 腹部大動脈瘤手術: 1120件
 (内 ステントグラフト: 610件)



こんにちは 入院支援室 です。



医療支援センターは、地域連携室・退院支援室・がん相談支援センター・総合相談室・在宅支援室・医療安全対策室・情報管理室の7部署で構成され、各部署スタッフが「役割強化」を目標に協働し、患者さん、ご家族、そして地域住民の皆さまへの支援に努めています。

8月、医療センターに新しい部署「入院支援室」が誕生しました。

入院支援室は、外来からの依頼を受けて、入院に関する説明や問診を行います。また、不安や質問に丁寧に対応していくことで、安心して入院生活に入って頂けることを目標としています。

まずは乳腺外科、婦人科、眼科から運用を開始しました。入院支援室では、今後より多くの診療科に拡大したいと考えております。

入院支援室標語「JO! JO! JO!」の熱意を持って患者さんをお迎えしたいと思います。

今後ともご支援下さいますよう、よろしくお願いいたします。

標語「JO! JO! JO!」の意味は？

JOY

〈喜び・幸せ〉

患者さんも医療者も負担軽減、喜びと期待を持って治療に臨む

JOINT

〈合同・共同・接合〉

病棟と外来を結ぶ・患者さんを入院から在宅へ繋ぐ

JOB

〈職務・仕事〉

誇りを持って、楽しい未来ある職場作り

JO! JO! JO! で進める
チーム医療!

基本理念

患者さんと協働して、心のこもった、安全で質の高い医療を行います。

～基本理念実現のための3つの柱～

1. チーム医療を推進し、信頼され満足される医療を行います。
2. 地域医療機関との連携のもとに、救急医療と高度で専門的な医療を行います。
3. 健全な病院経営を行うとともに、すぐれた医療人の育成を行います。

患者さんの権利に関する宣言とお願い

広島市立広島市民病院は、信頼され満足される医療を提供するため、次のような患者さんの権利を尊重します。

1. あなたには、個人として尊重される権利があります。
2. あなたには、良質で適切な医療を平等に受ける権利があります。
3. あなたには、診療に関して十分な説明と情報提供を受ける権利があります。
4. あなたには、自分自身の治療などについて、自分の意見を述べ、自ら決定する権利があります。
5. あなたには、当院での医療に関するプライバシーを保護される権利があります。

これらの権利を守り、より良い医療を実現するには、患者さんと医療提供者とが力を合わせて取り組む必要があります。そのため、患者さんも積極的に医療に参加・協力する責任があることをご理解のうえ、ご協力くださるようお願いいたします。